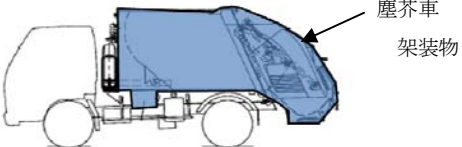
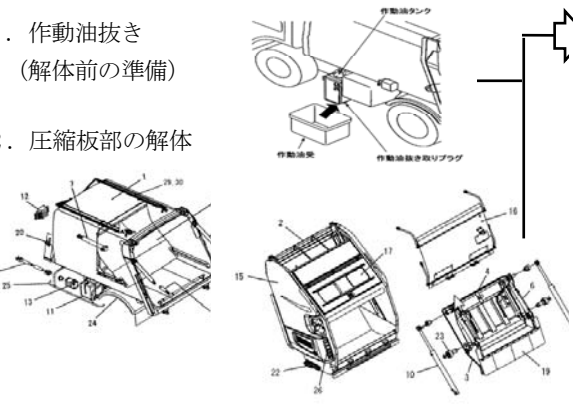
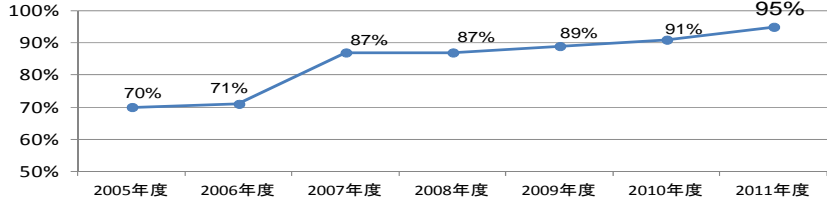
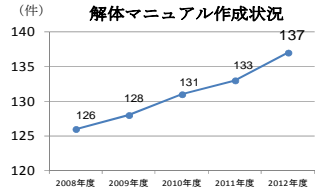


商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況について

本取組みは両工業会共同で2002年11月以降実施してきたものである。活動概要は以下のとおり。

1. リサイクル設計の推進 : (1)車体メーカー各社にて製品展開拡大中。
(2)環境基準適合ラベルの貼付目標 80%達成済み。(2011年度 95%)
(3)易解体性向上・解体マニュアル充実のため平ボデー、バン型車解体実験を実施。設計への反映、解体マニュアル記載内容見直しを推進。
2. 環境負荷物質の使用削減 : 鉛、六価クロム、水銀、カドミウムの4物質すべて目標達成を継続。
3. リサイクル・適正処理の推進 : 協力事業者制度の維持、継続中。
4. 情報提供、啓発活動の推進 : 関連事業者との情報交換継続。 架装物チラシ・協力事業者制度参加事業者リストの配布継続。

自主取組みの内容	進捗状況																																																												
<p>1. リサイクル設計の推進</p> <p>(1) 易解体性向上および適正処理の推進 〔目標：易解体性バンの試作、製品展開〕</p> <p>(2) 適正処理困難材(木材、断熱材)の代替材検討 〔目標：製品展開〕</p> <p>(3) 解体マニュアル作成 〔目標：主要3機種の大半をカバー〕</p> <p>「塵芥車解体マニュアルの例」</p>  <p>塵芥車架装物 解体方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作動油抜き (解体前の準備) 2. 圧縮板部の解体 	<p>①各社にて各種易解体性バンの開発、製品化を展開中。</p> <p>②易解体性バンは2011年度車工会会員バン生産の95%(45,026台)(前年比+4%)を占める。</p> <p>③易解体性向上のため、解体業者団体と連携して平ボデー、バン型車の解体実験を実施、解体時間短縮のための課題を抽出、製品に反映し架装メーカー各社にフィードバック。</p> <p style="text-align: center;">車工会会員生産バンに占める易解体性バンの割合</p>  <table border="1"> <caption>車工会会員生産バンに占める易解体性バンの割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2005年度</td><td>70%</td></tr> <tr><td>2006年度</td><td>71%</td></tr> <tr><td>2007年度</td><td>87%</td></tr> <tr><td>2008年度</td><td>87%</td></tr> <tr><td>2009年度</td><td>89%</td></tr> <tr><td>2010年度</td><td>91%</td></tr> <tr><td>2011年度</td><td>95%</td></tr> </tbody> </table> <p>①木 材:冷蔵・冷凍バンを中心に木材不使用および木材使用量削減、断熱材との混合使用を削減した生産を拡大中。</p> <p>②断熱材:環境に優しいスチレン系断熱材に主要メーカーは切替済。</p> <p>①解体事業者等から要望のあった、主要3機種(レントゲン車、冷蔵・冷凍バン、タンクローリ)の解体マニュアルについて対応完了。</p> <p>②車工会会員主要各社ホームページにて掲載取り扱い説明書等についても公開中 27社・137件(前年比+2社・+4件)</p> <p>③解体事業者団体と連携、解体実験を通じ得られた作業実態をマニュアルへ反映。</p> <p style="text-align: center;">(解体作業手順)</p> <p style="text-align: center;">2-2. 圧縮板・押出式塵芥車架装物の解体マニュアル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品目番号</th> <th>品目名</th> <th>解体方法</th> <th>注意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>事前処理 I</td> <td>ボデー、テールゲート内の積込物を廃棄し、清掃して下さい。</td> <td>焼却場等の指定の場所で廃棄して下さい。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事前処理 II</td> <td>主要な外装部品を取り外して下さい。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>事前処理 III</td> <td>オイルタンクのドレンから作動油を抜いて下さい。 2トン車約30~40L、4トン車約40~60L</td> <td>必ず屋根のある所で作業して下さい。作動油のごぼれに注意して下さい。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ボデー</td> <td>溶断、切断により、截断して下さい。</td> <td>引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テールゲート</td> <td>溶断、切断により、截断して下さい。</td> <td>引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>プレスプレート</td> <td>溶断、切断により、截断して下さい。</td> <td>引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>プレート</td> <td>溶断、切断により、截断して下さい。</td> <td>引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(件) 解体マニュアル作成状況</p>  <table border="1"> <caption>解体マニュアル作成状況</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2008年度</td><td>126</td></tr> <tr><td>2009年度</td><td>128</td></tr> <tr><td>2010年度</td><td>131</td></tr> <tr><td>2011年度</td><td>133</td></tr> <tr><td>2012年度</td><td>137</td></tr> </tbody> </table>	年度	割合 (%)	2005年度	70%	2006年度	71%	2007年度	87%	2008年度	87%	2009年度	89%	2010年度	91%	2011年度	95%	品目番号	品目名	解体方法	注意事項		事前処理 I	ボデー、テールゲート内の積込物を廃棄し、清掃して下さい。	焼却場等の指定の場所で廃棄して下さい。		事前処理 II	主要な外装部品を取り外して下さい。			事前処理 III	オイルタンクのドレンから作動油を抜いて下さい。 2トン車約30~40L、4トン車約40~60L	必ず屋根のある所で作業して下さい。作動油のごぼれに注意して下さい。	1	ボデー	溶断、切断により、截断して下さい。	引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。	2	テールゲート	溶断、切断により、截断して下さい。	引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。	3	プレスプレート	溶断、切断により、截断して下さい。	引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。	4	プレート	溶断、切断により、截断して下さい。	引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。	年度	件数	2008年度	126	2009年度	128	2010年度	131	2011年度	133	2012年度	137
年度	割合 (%)																																																												
2005年度	70%																																																												
2006年度	71%																																																												
2007年度	87%																																																												
2008年度	87%																																																												
2009年度	89%																																																												
2010年度	91%																																																												
2011年度	95%																																																												
品目番号	品目名	解体方法	注意事項																																																										
	事前処理 I	ボデー、テールゲート内の積込物を廃棄し、清掃して下さい。	焼却場等の指定の場所で廃棄して下さい。																																																										
	事前処理 II	主要な外装部品を取り外して下さい。																																																											
	事前処理 III	オイルタンクのドレンから作動油を抜いて下さい。 2トン車約30~40L、4トン車約40~60L	必ず屋根のある所で作業して下さい。作動油のごぼれに注意して下さい。																																																										
1	ボデー	溶断、切断により、截断して下さい。	引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。																																																										
2	テールゲート	溶断、切断により、截断して下さい。	引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。																																																										
3	プレスプレート	溶断、切断により、截断して下さい。	引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。																																																										
4	プレート	溶断、切断により、截断して下さい。	引火、切断カーム、粉塵等に注意して下さい。																																																										
年度	件数																																																												
2008年度	126																																																												
2009年度	128																																																												
2010年度	131																																																												
2011年度	133																																																												
2012年度	137																																																												

(4) 環境基準適合ラベルの設定
〔目標：車工会会員生産車の80%に貼付〕

〈環境基準適合ラベルの要件〉

- ①3R判断基準ガイドラインの作成
- ②解体マニュアルの作成・公開
- ③製造業者名の表示
- ④樹脂部品材料名の表示

2. 環境負荷物質の使用削減

(1) 鉛

〔目標：使用量 2002年度 60g/台
→2006年度 30g/台に半減〕

(2) 水銀

〔目標：2005年1月以降使用禁止
(照明装置等を除く)〕

(3) 六価クロム

〔目標：2008年1月以降使用禁止〕

(4) カドミウム

〔目標：2007年1月以降使用禁止〕

*環境負荷物質対応状況は車工会会員
主要各社ホームページで公開。

3. リサイクル・適正処理の推進

(1) 協力事業者制度の構築と拡充

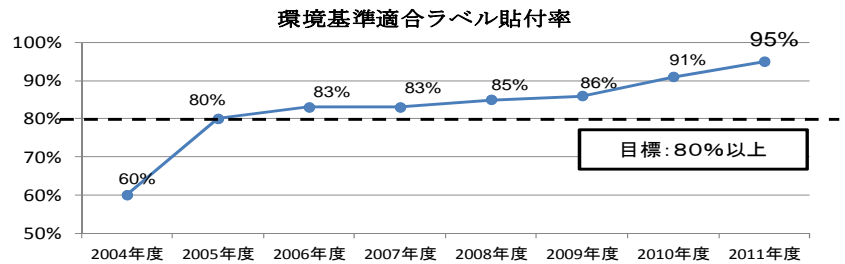
〔目標：制度への登録拡充と
各ブロックへの適正配置〕

車工会ホームページに掲載



4. 情報提供、啓発活動の推進

2004年3月、環境基準適合ラベルの要件を設定し、2005年度以降
毎年目標80%を達成済み。(2011年度：95%) (前年比 +4%)



バン型車の表示例

2005年度より目標達成を継続。

〈鉛フリー化の事例〉ダンプ、タンクローリ等の電着塗料への切替

〈水銀フリー化の事例〉高所作業車の水平保持用のスイッチ

2007年末より目標達成を継続。

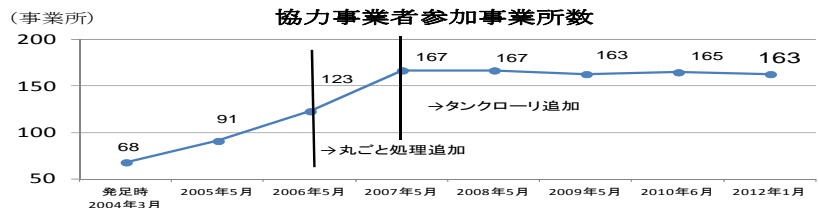
〈六価クロムフリー化の事例〉金具類(例：蝶番、ボルト、ナット)
油圧ホースガードワイヤ

2006年末より目標達成を継続。

〈カドミウムフリー化の事例〉マーカーランプ、タンクローリ自動
開閉装置の温度ヒューズ

協力事業者を拡充し、全国各ブロックへの適正配置を継続。
処理分野の拡大も継続。解体事業者の要望をふまえて丸ごと処理
事業者ならびにタンクローリ残液の分析・処理・洗浄事業者を追
加。

協力事業者の状況を定期的に把握し、必要に応じ車工会ホーム
ページを更新、情報提供を継続。



(注) 複数品目で参加の事業者があるため、品目毎の合計値と参加事業者数は異なる。

(※) 丸ごと処理とは素材ごとに分離せず、架装物アッセンブリー状態でシュレッダー等で処理。

※東日本大震災発生により更新作業を12月に実施、H/Pを1月に更新し、リストは3月に配付。

(1) 協力事業者参加事業者リストの作成・配布。

解体事業者等に配付。(3月：10,000部)

(2) 解体事業者への情報提供。

商用車架装物処理に関して解体事業者団体等と意見交換を継続。

また、解体事業者団体に対してシャシー・架装物工場見学会を実施。

商用車架装物 リサイクル・適正処理 に関する 「協力事業者制度」 参加事業者一覧

2012年1月現在

「協力事業者制度」とは？

一般社団法人 日本自動車工業会と 一般社団法人 日本自動車車体工業会にて商用車架装物の廃棄に伴い発生する処理困難物（木材、断熱材、FRP等）・タンクローリー残液分析・洗浄・処理についてリサイクル・適正処理の推進という社会的要請に応えるため商用車架装物自主取組みの一環で運用している制度です。

商用車架装物を廃棄するユーザー等に対して必要な処理やリサイクルが適正に行えるよう、これらの協力事業者の情報をリスト等で公表しています。

詳しくは、一般社団法人 日本自動車車体工業会ホームページをご覧ください。

車体工業会(またはJABIA)

検索



(車体工業会ホームページより)
環境への取り組み

クリック



(車体工業会ホームページより)
協力事業者制度

クリック

<http://www.jabia.or.jp/environment/cooperation/>

※本制度は、事業者を推薦するものではありません。

お問い合わせ

一般社団法人 日本自動車工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
(日本自動車会館)

一般社団法人 日本自動車車体工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30
(日本自動車会館)

TEL:03-3578-1681 FAX:03-3578-1684

E-mail:info@jabia.or.jp

※協力事業者制度の創設費用の一部には、
オートレースの補助金が使われています。

